

# 身体障害と高次脳機能障害のある N様の再出発に向けて

～事例を通して就労支援の難しさと見えてきた地域課題～

- 高津 華奈（医療法人三九会 三九朗病院医療ソーシャルワーカー）  
茶山 由香利・宇野 美恵子（医療法人三九会 三九朗病院）

## 三九郎病院の紹介

### 【理念】

「ここに来て良かった」と思ってもらえる施設でありたい

### 【病床数】

139床  
(回復期リハビリテーション病棟 139床)

### 【所在地】

愛知県豊田市小坂町7-80



## 身体障害と高次脳機能障害のあるN様の再出発とは

N様が求めた“働くこと”は、復職ではなく  
“生きること”

N様の就労支援から、地域におけるリハビリテーション病院としての役割が見えてきた

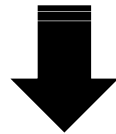
# はじめに

## 『働くことは生きること』

「働くことは、生活そして人生のすべてではないにしても、その重要な部分をかたちづくる。そして単に働くことが人生の多くの部分を占めるというわけではなく、**働くことが多くの意味を引き出し、人生に多くの意味を付与する（中略）**。したがって働くことの意味は生きる意味に重なる」

（橘木俊詔[編著]『働くことの意味』，杉村芳美「人間にとって労働とは-「働くことは生きること」- ミネルヴァ書房（2009）p.53抜粋）

高次脳機能障害の患者の中には、病識の低下からリハビリの必要性を感じていない患者がいる



「病識の低下は、リハビリテーションを進めるうえでも家庭や社会で生活するうえでも、**大きな阻害要因**になります」

（渡邊修『高次脳機能障害と家族のケア現代社会を蝕む難病のすべて』講談社+α新書（2008）p.174抜粋）

# 事例紹介

**N様 男性 58歳**

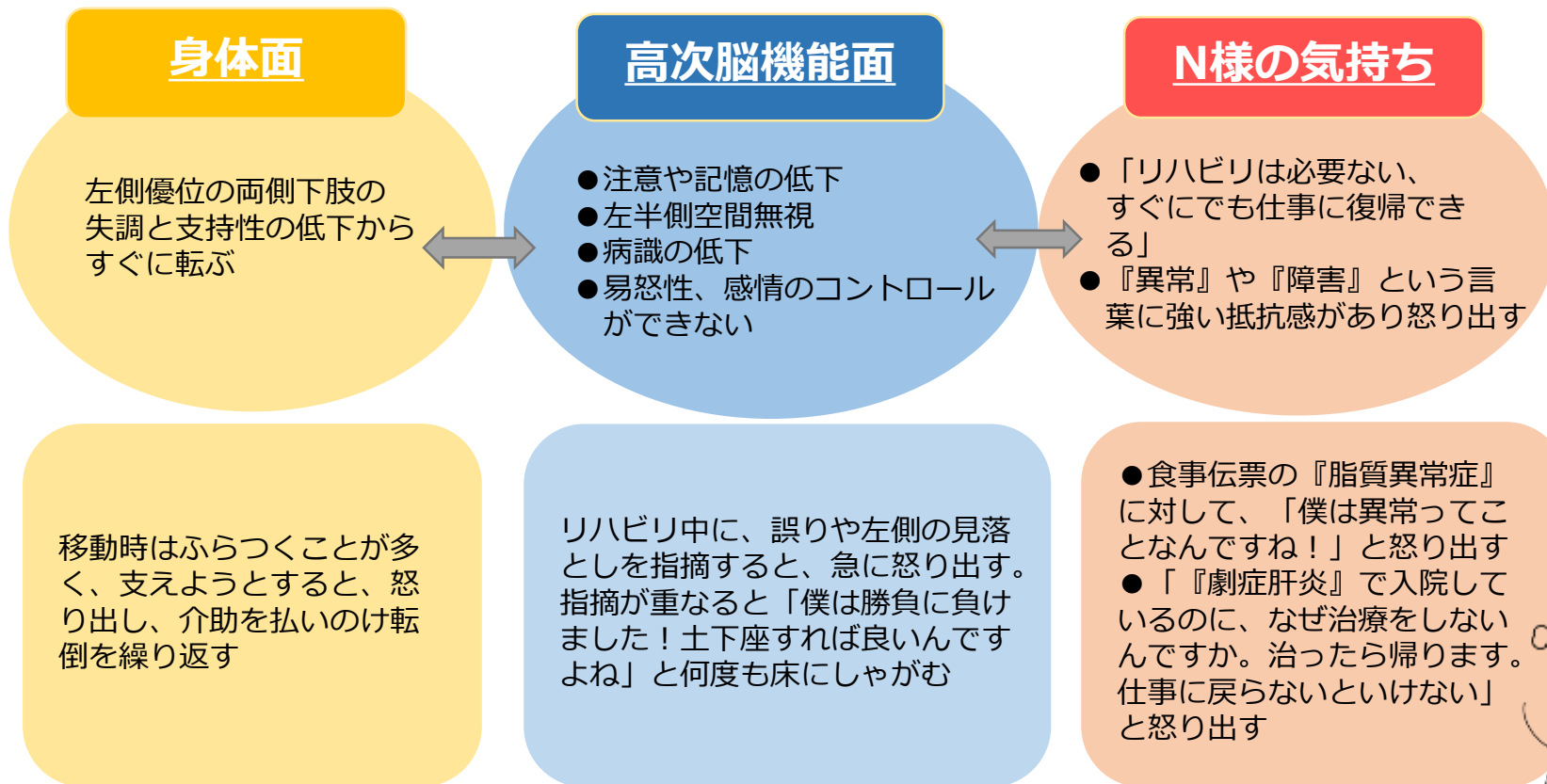
**診断名**： てんかん重積 高次脳機障害 劇症肝炎 （令和3年11月発症）

**既往歴**： 昭和48年 交通事故に遭い、症候性てんかんを指摘  
平成4年 てんかん大発作で入院  
平成28年 てんかん大発作のため、一時的に気管挿管  
人工呼吸器管理入院  
令和2年 てんかん発作のため、一時入院

**家族構成**： 妻、子供との4人暮らし

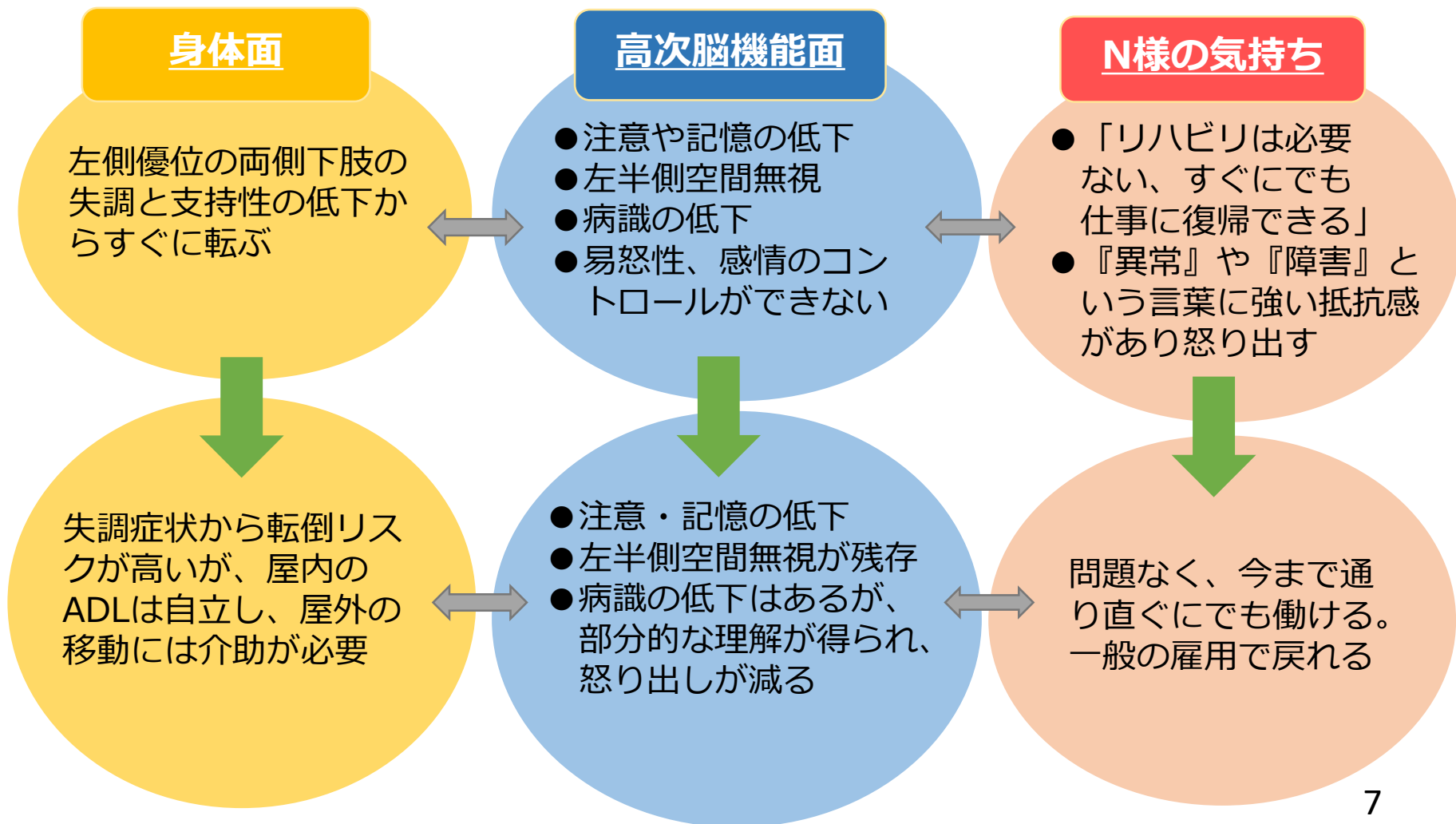
**職業**： 自動車関連の会社員 約38年間勤めており、  
今回の発症直前は管理業務に就いていた

# 入院時の状態



**➡ N様との関わりには常に細心の注意が求められた**

# 退院時の状態

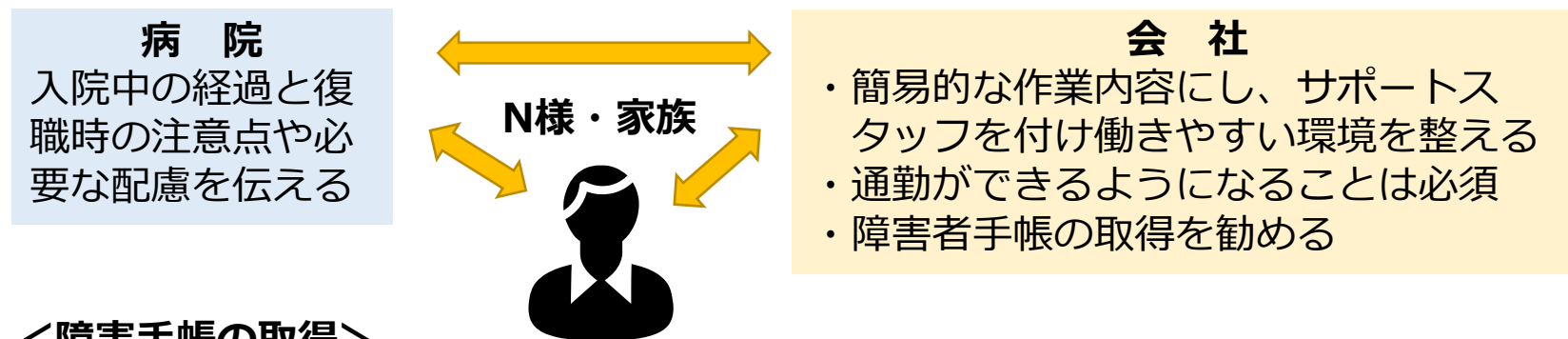


# 退院後の経過

復職の希望があり、退院後は通勤を想定した自立度の拡大を目指し、リハビリ継続のため当院に通院

## <会社へのアプローチ>

N様・家族、会社側、医師、PT、OT、ST、MSWで復職に向けた話し合いを実施



## <障害手帳の取得>

病識の理解が得られてきたことで2種類の障害手帳取得した



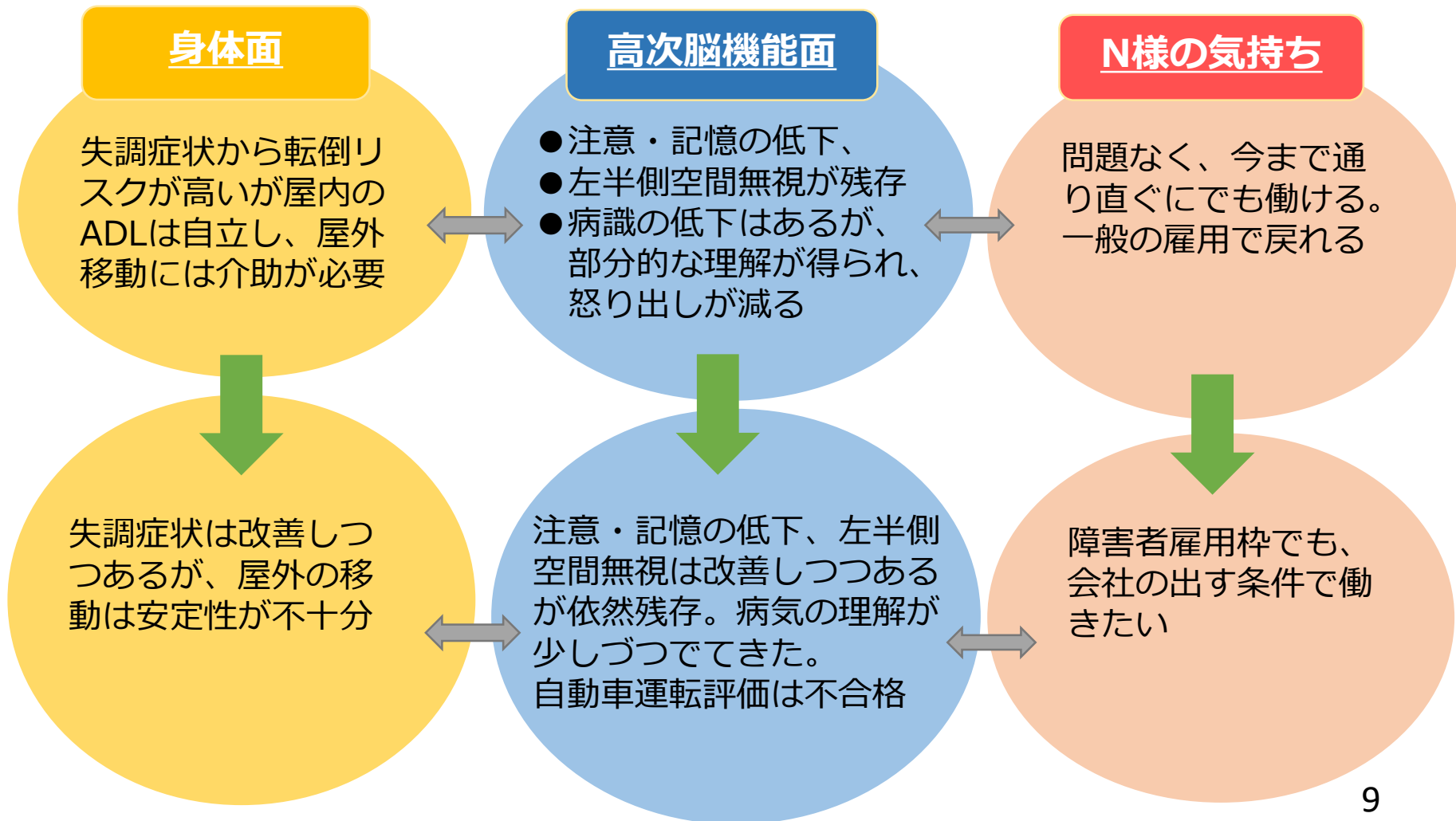
身体障害者手帳 4級



精神障害者保健福祉手帳 2級



# 退院3カ月後の状態



# N様の通勤について



失調のあるN様にとっては果てく大変な通勤であった

通勤を想定したリハビリに加え、毎日家族と2 kmを歩く練習に励んだ

# 定年退職を迎える

発症から約10カ月

復職の目途が立ちそうな頃、N様はてんかん重積を再発症した

急性期病院での治療を終え、当院でリハビリを再度行い退院した

しかし、期間を空けず再び痙攣発作により、急性期病院に入院となった

ADLは自立していたが、身体障害も高次脳機能障害も生活上に影響をきたす状態になる。復職に至ることなく、令和3年11月のてんかん重積発症から1年4カ月後、60歳を迎え定年退職に

# N様の再出発

それでも、N様は就労を諦めることはなかった

MSWとの面談時にN様より「B型に通いたい」と希望が出た

市内の就労継続支援B型の事業所に以下の条件のもと探した

- ①送迎付き
- ②高次脳機能障害を対象にしている

**病識が芽生えてきたN様を福祉的就労に繋がられるとMSWは考え調べたが、利用できる事業所は無かった**

# 問題点

---

## <身体障害>

通うための手段が問題になる

## <高次脳機能障害>

理解してもらい、対応してもらうことが難しい



## B型に繋がらなかった理由

個人因子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失調症状から転倒リスクが高く、屋外移動が自立できない</li> <li>・病識の獲得はできていたが、高次脳機能障害があり、記憶や注意等の低下が残存</li> </ul>
背景因子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳機能障害に対応できる事業所が少ない</li> <li>・てんかん発作時に対応できる事業所が少ない</li> <li>・送迎対応ができない。もしくは、送迎ができて、公共交通機関を利用して、送迎車が来る駅まで自力で行かなければならない</li> <li>・最寄りの駅は徒歩20分。駅構内はバリアフリーではなく、階段のみ</li> </ul>

### <豊田市内31ヶ所の事業所事情（電話で確認）>

受け入れが難しい理由	事業所数
失調症状があり転倒	14
高次脳機能障害	8
てんかんがある	2
自宅までの送迎不可 <事業所の最寄り駅からの送迎はあり>	26
60歳以上	3

## 病院の役割

- ☆電話連絡だけの連携ではなく顔の見える関係作りをしていく
- ☆身体障害や高次脳機能障害について、正しい理解や対処方法を伝える努力をしていく
- ☆復職や福祉的就労事業所に繋げた後も、連携を継続する

**相談できる病院となり、  
地域におけるリハビリテーション病院の役割を果たす！**

『ここに来て良かった』  
と思ってもらえる施設にしていきたい

# 最後に

---

「働くことは生きること」